



# 障害者の芸術鑑賞支援

美術館

## 彫刻触ってイメージ

芸術作品にじかに触ることができ、鑑賞会を開いたり、演劇や舞踊などの舞台上に字幕や手話、サポート機器を導入したり。障害がある人の芸術鑑賞を支援する取り組みが県内でも広まっている。美術館や劇場などでのルールやマナーも伝え、芸術に馴染みのない人に間口を広げることにもつながっている。非日常空間を誰もが存分に楽しむための工夫を取材した。(三下奈穂子)



朝倉文夫の彫刻を触って鑑賞する障害者ら17月、大分市の県立美術館



「言葉での説明だけでは限界があり、美術館は縁遠い場所だった。作者の思いが強く伝わってきた」

近年、スマートフォンや眼鏡型端末で映画の字幕や音声ガイドを楽しめる無料アプリも開発されている。対応作品は2016年から製作されるようになり、現在は上映作品の1割ほど。

眼鏡型端末は、おおいた障がい者芸術文化支援センター、TOHOシネマズアミューズプラザおおいたなどで貸し出しもしている。一方で、障害者を想定した災害時の緊急アラートシステムの導入など費用面の課題もある。

昨年夏、大分市寿町の県立美術館で開かれた彫刻家朝倉文夫の生誕140周年を記念する企画展。おおいた障がい者芸術文化支援センター主催の作品を触って鑑賞するワークショップに参加した全員の主婦

## やや明るく、音量抑え

### 映画館

大分、中津両市の映画館では毎年、障害のある人が安心して鑑賞できるように配慮した映画の上映会が開かれている。作品は主に子ども向けを選び、会場をやや明るくして音量を抑え、大

(47)が顔をほころばせた。参加者は約40人。屋外彫刻の補修に携わる田中修二・大分大教育学部教授(55)らの解説を聞きながら、普段は触ることのできない彫刻の、造形ラインなどを指先や手のひらの感触で丁寧に触り、作確かめ、作

品イメージを膨らませた。田中教授は県立盲学校の生徒を対象にした鑑賞会にも取り組んでいる。鑑賞という受け身に捉えがただが、能動的でクリエイティブで無限の楽しみ方があ。多くの作品に接することで誰もが自分の世界を広げることができる」と話し

### 舞台

## 手話や字幕、要約筆記

オペラや日本舞踊などの鑑賞の場でもバリアフリー化が進んでいる。県芸術文化スポーツ振興財団が毎年開く鑑賞支援付き舞台では手話、要約筆記をするスタッフを配置。支援機器を貸

し出し、スクリーンには日本語訳や現代語訳の字幕を大きく映し出す。上演前にはあらずじの説明や鑑賞方法のレクチャーが付き、舞台初心者にも好評だ。大阪府や岩手県で障害特性や支援方法の研究

修を受けたいちご総合文化センターの企画普及課副課長の八坂千景さん(51)は「出演者側にも理解が広がり、障害者や認知症の人など多様な観客に対応できる劇場づくりは、舞台上に親しんでこなかった人を呼び込むきっかけにもなる。手探りでもやり続けることが大事」と力を込めた。



八坂千景さん



田中修二教授



問①～③について、記事の中から探して書き出しましょう。問④は自分で考えてみましょう。

〔問①〕 県立美術館では全盲（ぜんもう）の人向けにどのようなワークショップが開かれましたか。

答え 【 \_\_\_\_\_ 】

〔問②〕 障害のある人が安心して観賞できる映画の上映会を主催した県の岩田さんは、どのような機会をすべての人が持てるように支援を広げたいと言っていますか。

答え 【 \_\_\_\_\_ 】

〔問③〕 いいちこ総合文化センターの八坂さんは、多様な観客に対応できる劇場づくりには、どんなことが大事と言っていますか。

答え 【 \_\_\_\_\_ 】

〔問④〕 障害がある人もない人も、すべての人が一緒に芸術に親しめるように、あなたも学校や身近な場所で行き組めることは何でしょうか。考えてみましょう。

.....

.....

.....

.....

.....